

## 7

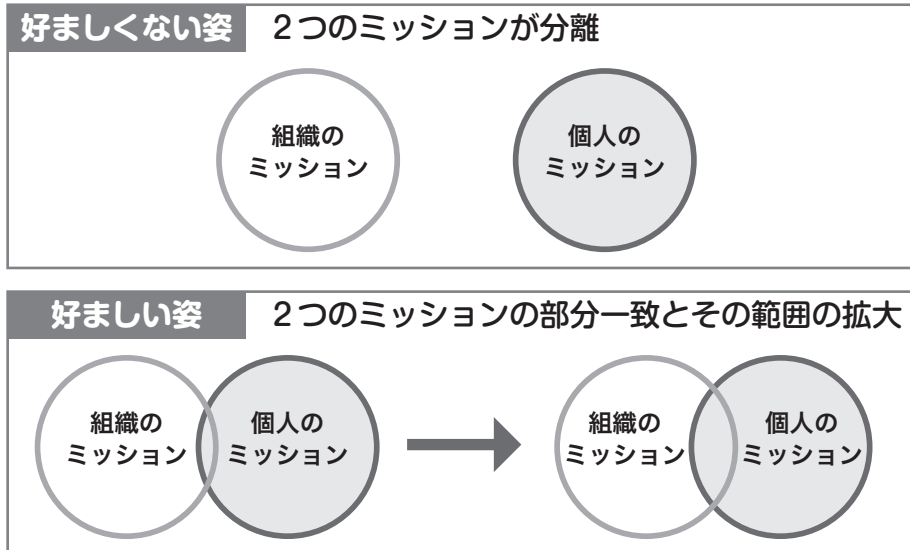
個人のミッションと組織の  
ミッションのすり合わせ

## ■ 仕事を「自分ごと化」するために

みずからのミッションが明らかになったら、次のステップで取り組む課題は組織のミッションとのすり合わせです。もちろん、あなた自身のミッションと所属する組織のミッションが完全に一致することはあり得ないでしょう。一方で、2つのミッションが完全に分離した状態のまま、仕事を続けることには限界があります。

好ましいのは、2つのミッションが部分的に重なりをもっていて、その範囲が時間の経過とともに拡大していく状態です。

組織のミッションと、みずからのミッションのつながりが見えてくると、仕事への向き合い方が変わります。「意味ある仕事をしている」という自覚がもてるため、やりがい、働きがいが高まります。また、組織から求められていることが明確になるため、求めに応じた働き方ができ、組織への



貢献度が上がるでしょう。結果として、今まで以上に仕事を「自分ごと化」することができるようになるのです。

**Q1** あなたが所属する組織のミッションはどのようなものですか。

.....

.....

.....

**Q2** あなたのミッションと所属組織のミッションは、どのような点で重なっていますか。

.....

.....

.....

**参考** 「パーパス」という概念

ミッションに近い概念に「パーパス」というものがあります。パーパスも、組織・事業や個人の「存在意義」を説明するものですが、社会性、公共性という視点が包含されているのが特徴です。すなわち、世のため、人のために、組織（あるいは自分）には何ができるか、何をするかを説明したものがパーパスなのです。

社会の急激な変化を受けて、企業が従来のビジネスモデルの見直しを迫られています。そんな中、自社の原点を振り返り、企業としてのパーパスを再確認しようとする会社が少なくありません。それは個人にとっても大切なことです。「自分はなぜこの会社に入ったのか」「会社で何がしたいのか」を改めて問うことで、これから自分が進むべき道が見えてくるのです。

次のページには、パーパスに目覚める5つの質問を紹介しています。回答してみましょう。

## 8

## 自利利他という考え方

パーパスに目覚める5つの質問<sup>19</sup>

## ① 得意なことは何か？

\*自分の強みを発見させる質問

.....

.....

## ② 何をしているときに楽しいか？

\*自分が好きな仕事を見つける質問

.....

.....

## ③ 自分の何がいちばん役に立っていると感じるか？

\*自分の仕事上の価値観に気づかせる質問

.....

.....

## ④ 何をしているときに前進し、成長していると感じるか？

\*自分の理想の姿に近づくために、今の仕事はどう役立っているかに気づかせる質問

.....

.....

## ⑤ 他の人とどんな関係を築いているか？

\*これからの人間関係をどのような状態にしたいかに気づかせる質問

.....

.....

19...出典:ハーバード・ビジネス・レビュー編集部[編]/DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー編集部[訳](2021)『働くことのパーパス』ダイヤモンド社

## ■「自分のため」と「誰かのため」のバランスを考える

すでに学んだとおり、ミッションは「組織・事業、あるいは個人の『果たすべき役割』や『存在意義』」を表現したものです。ここまでの学習で、あなたのミッションはかなり鮮明になってきたのではないのでしょうか。ここで、もう1つ考えておきたいことがあります。それは、「誰かのため」、つまり「利他」という発想です。

東京オリンピックでメダルを獲得したあるアスリートが、「『自分のため』から『人のため』へと目的を変えたことで、それまで以上に競技に打ち込めるようになった」と述べていました。このように、人は誰かのためという大義を抱いたときに大きな力を発揮する存在なのです。

そしてニューノーマルの時代に、より一層大切になる考え方が「利他の精神」であるといわれています。「人類最高の叡智」と称されるフランス人経済学者・作家のジャック・アタリは、利他の精神の発揮こそがもっとも合理的な利己主義につながると主張しています。

グローバル化、デジタル化によってあらゆるものがつながっている現代は、相互作用が強まっています。したがって、相手が不利益を被れば、その不利益がやがて自分に回ってきます。反対に、相手に利益を提供すれば、自分も利益を享受できるのです。

つまり、「人をよくしよう、人を助けようとするときに自分はよくなる」というのがジャック・アタリをはじめとする世界の指導者たちが説く、最先端の思想なのです。

ただ、利他の精神といっても、いきなり他者のことを考えるのは難しいでしょう。そこで参考になるのが、禅の教えにある「自利利他」という概念です。平易なことばで表現すると「他人の利益や幸せが自分の利益や幸